

一般社団法人西日本オペラ協会 コンセル・ピエール 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、一般社団法人西日本オペラ協会 コンセル・ピエールと称し、英文ではNishinihon Opera Association Concert Pierre と表記する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を福岡県太宰府市に置く。

2 この法人は、理事会の決議を経て、従たる事務所を必要な地に置くことができる。

(目的)

第3条 この法人は、西日本オペラ協会「コンセル・ピエール」を承継し、オペラ研究、上演を中心とし、声楽全般にわたる研究及び発表を通じて、音楽芸術の発展に寄与するとともに福岡県の文化向上に貢献することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。

- (1) 声楽全般に関する研究及びその成果の発表
- (2) 研究会、講習会、鑑賞会及び懇談会の開催

(3) 青少年の音楽教育に資するための音楽会の開催

(4) 研究生及び合唱団の育成

(5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2 前項の各号の事業は、福岡県において行なうものとする。

第2章 社員及び会員

(法人の構成)

第5条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）上の社員とする。

(1) 正会員 この法人の目的に賛同する声楽家を主とした音楽家で、理事会が承認した者

(2) 準会員 正会員に準ずるこの法人の目的に賛同する声楽家を主とした音楽家で、理事会が承認した者

(入会)

第6条 正会員、準会員として入会しようとする者は、理事会が別に定める入会申込書により、申し込むものとする。

2 入会は、理事会においてその可否を決定し、この本人に通知するものとする。

(会費)

第7条 会員は、この法人の活動に必要な経費に充てるため、社員総会において定め

る会員の入会・退会及び会費に関する規定（以下「会員規程」という。）に基づき、
会費を支払わなければならない。

（会員の資格喪失）

第8条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- （1）任意に退会したとき
- （2）成年被後見人又は被保佐人となる審判を受けたとき
- （3）死亡及び失踪宣告のとき
- （4）除名されたとき

（退会）

第9条 会員は、退会する場合には、退会届を提出し、理事会での承認を得なければ
ならない。

（除名）

第10条 会員が次の各号の一に該当する場合は、社員総会において、総会員数の半
数であって、総正会員の議決権の3分の2以上の議決に基づき、除名することが
できる。この場合、その会員に対し、社員総会の1週間前に理由を付して除名す
る旨を通知し、社員総会において、決議の前に弁明の機会を与えなければなら
ない。

- （1）この法人の定款又は規約に違反したとき

(2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき

(3) その他の正当な事由があるとき

2 準会員が前項各号の一に該当する場合には、理事会の決議に基づき、除名することができる。この場合、その準会員に対し、理事会の1週間前までに、理由を付して除名する旨を通知し、理事会において、決議の前に弁明の機会を与えなければならない。

3 前2項により除名が決議されたときは、その会員に対し、通知するものとする。

(会員資格喪失に伴う権利及び義務)

第11条 会員が第8条の規定によりその資格を喪失したときは、この法人に対する会員としての権利を失い、義務を免れる。ただし、未履行の義務は、これを免れることはできない。

2 この法人は、会員がその資格を喪失しても、既納の会費及びその他の拠出金品は、これを返還しない。

第3章 社員総会

(構成)

第12条 社員総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第13条 社員総会は、次の事項を決議する。

- (1) 理事及び監事の選任及び解任
- (2) 定款の変更
- (3) 各事業年度の事業報告及び決算の承認
- (4) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認
- (5) 入会の基準並びに会費等の金額に係る定め
- (6) 会員の除名
- (7) 長期借入金並びに重要な財産の処分又は譲受け
- (8) 解散、公益目的取得財産残額の贈与及び残余財産の処分
- (9) 合併、事業の全部若しくは一部の譲渡又は公益目的事業の全部の廃止
- (10) 前各号に定めるもののほか、法人法に規定する事項及びこの定款に定める事項

(種類及び開催)

第14条 この法人の社員総会は、定時社員総会及び臨時社員総会の2種とする。

2 定時社員総会は、毎事業年度終了後3か月以内に毎年1回開催する。

3 臨時社員総会は、必要に応じて開催する。

(招集)

第15条 社員総会は、理事会の決議に基づき、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第3項の規定により必要に応じて臨時社員総会の招集の通知を

発しなければならない。

3 社員総会の招集は、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電子メールをもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

4 前項の規定にかかわらず、社員全員の同意があるときは、招集の手続を経ることなく開催することができる。

(議長)

第16条 社員総会の議長は、理事長がこれに当たる。

(定足数)

第17条 社員総会は、総正会員の過半数の出席がなければ開催することができない。

(議決権)

第18条 社員総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

(決議)

第19条 社員総会の決議は、総正会員の過半数が出席し、出席した正会員の過半数をもって決する。

2 前項の規定に関わらず、次の決議は総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上の議決をもって行う。

(1) 定款の変更

(2) 監事の解任

- (3) 会員の除名
- (4) 解散
- (5) その他法令で定められた事項

(書面などによる議決権行使)

第20条 社員総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面又は電子メールをもって表決することができる。

- 2 前項の場合における前条の規定の適用については、その正会員は出席したものとみなす。

(議決権の代理行使)

第21条 正会員は、委任状その他の代理権を証明する書面又は電子メールをもって、その他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

- 2 前項の場合において、第19条の規定の適用については、その正会員は社員総会に出席したものとみなす。

(議事録)

第22条 社員総会の議事については、法令の定めるところにより次に掲げる事項を記載した議事録を作成し、総会の日から10年間、この法人の主たる事務所に備え置く。

- (1) 総会の日時及び場所

- (2) 正会員の現在数と議決権数
 - (3) 総会に出席した正会員の数及び議決権数（書面若しくは電子メールによる表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）
 - (4) 総会に出席した理事、監事の氏名
 - (5) 総会の議長の氏名
 - (6) 審議事項及び決議事項
 - (7) 議事の経過の概要及びその結果
 - (8) 議事録署名人の選任に関する事項
 - (9) その他一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第11条で定める事項
- 2 前項の議事録には、議長及び社員総会で選任された議事録署名人2名が、署名捺印する。

第4章 役員

(役員の種類)

第23条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 3名以上10名以内
 - (2) 監事 1名以上3名以内
- 2 理事のうち1名を理事長、2名以内を常務理事とする。

- 3 前項の理事長をもって法人法の代表理事とし、常務理事をもって法人法第91条第1項第2号に規定する業務執行理事とする。

(役員を選任)

第24条 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。

- 2 理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
- 3 理事のうちには、理事のいずれか1人とその配偶者又は3等身内の親族その他法令で定める特別の関係がある者の合計数が、理事総数の3分の1を超えてはならない。
- 4 監事には、この法人の理事（親族その他特殊の関係があるものを含む。）及びこの法人の使用人が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係があってはならない。

(理事の職務及び権限)

- 第25条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。
- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。常務理事は、理事長を補佐し、理事会において別途定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
 - 3 理事長及び常務理事は、毎事業年度ごとに4か月を超える間隔で2回以上、自

己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第26条 監事は次に掲げる職務を行う。

- (1) 理事の職務執行の状況を監査し、法令に定めるところにより、監査報告を作成すること
- (2) この法人の業務及び財産の状況を調査すること、並びに各事業年度に係る計算書及び事業報告を監査すること
- (3) 社員総会及び理事会に出席し、必要あると認めるときは意見を述べること。
- (4) 監事に認められた法令上の権限を行使すること

(役員任期)

第27条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとし、再任を妨げない。
- 3 補欠として選任された理事及び監事の任期は前任者の任期の満了する時までとする。
- 4 理事又は監事は第23条1項に定める定数に足りなくなる時は、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は

監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第28条 理事又は監事は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上の議決により、これを解任することができる。

(報酬等)

第29条 役員は無報酬とする。ただし、常勤の役員には報酬を支給することができる。

2 役員には、その職務を行うために要する費用の支払をすることができる。

3 前2項に関し必要な事項は、社員総会の決議により別に定める役員報酬等規定による。

(取引の制限)

第30条 理事が次に掲げる取引をしようとする場合には、その取引について重要な事実を開示し、理事会の承認を得なければならない。

(1) 自己又は第三者のためにするこの法人の事業の部類に属する取引

(2) 自己又は第三者のためにするこの法人との取引

(3) この法人がその理事の債務保証することその他理事以外の者との間におけるこの法人と理事との利益が相反する取引

(役員責任免除)

第31条 この法人は、 役員の法人法第111条第1項の賠償責任について、法令の定める要件に該当する場合には、理事会の決議によって、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として、免除することができる。

(会長、顧問及び参与)

第32条 この法人に、任意の機関として、会長、顧問及び参与若干名を置くことができる。

- 2 会長、顧問及び参与は、理事会の推薦により、理事長がこれを委嘱する。
- 3 会長、顧問及び参与は、重要な事項について理事長の諮問に応ずる。
- 4 会長、顧問及び参与の報酬は無償とする。ただし、その職務を行うために要する費用の支払をすることができる。

第5章 理事会

(設置)

第33条 この法人に理事会を設置する。

- 2 理事会は、すべての理事で組織する。

(権限)

第34条 理事会は、この定款に別に定めるもののほか、次の職務を行う。

- (1) 社員総会の日時及び場所並びに目的である事項等の決定

- (2) 規則の制定、変更及び廃止
- (3) 前各号に定めるもののほか、この法人の業務執行の監督
- (4) 理事の職務の執行の監督
- (5) 理事長及び常務理事の選定及び解職

2 理事会は、次に掲げる事項その他重要な業務執行の決定を理事に委任することができない。

- (1) 重要な財産の処分及び譲受け
- (2) 多額の借財
- (3) 重要な使用人の選任及び解任
- (4) 重要な組織の設置、変更及び廃止
- (5) 内部管理体制の整備

(招集)

第35条 理事会は、法令又はこの定款で別に定める場合を除き、理事長が招集する。

2 理事会を招集する者は、理事会の日時、場所、目的及び審議事項その他必要な事項を記載した書面又は電子メールをもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

3 前項の規定にかかわらず、理事及び監事の全員の同意があるときは、招集の手続きを経ることなく開催することができる。

(議長)

第36条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(定足数)

第37条 理事会は、理事の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

(決議)

第38条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる理事の全員が書面又は電子メールにより同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事が異議を述べたときはこの限りでない。

(議事録)

第39条 理事会の議事については、法令で定めるところにより次に掲げる事項を記載した議事録を作成し、理事会の日から10年間、この法人の主たる事務所に備え置く。

(1) 理事会の日時及び場所

(2) 理事会に出席した理事及び監事の氏名又は名称(書面又は電子メールによる表決者にあつては、その旨を付記すること。)

- (3) 理事会の議長の氏名
- (4) 審議事項及び決議事項
- (5) 議事の経過の概要及びその結果
- (6) その他一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第15条で定める事項

2 議事録には出席した理事並びに監事が記名押印する。

第6章 財産及び会計

(財産の構成)

第40条 この法人の財産は、次の各号をもって構成する。

- (1) 入会金及び会費
- (2) 資産から生ずる収入
- (3) 事業に伴う収入
- (4) 寄附金品
- (5) その他の収入

(事業年度)

第41条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第42条 この法人の事業計画及び収支予算、資金調達及び設備投資の見込みを記載

した書類については、毎事業年度の開始の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を得なければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第43条 この法人の事業報告及び決算は、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を

作成し、監事の監査を受け、理事会の承認を受けたうえで、定時社員総会に報告し、承認を得なければならない。

(1) 事業報告

(2) 事業報告の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 損益計算書（正味財産増減計算書）

(5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

(6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時社員総会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款及び社員名簿を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(1) 監査報告

(2) 理事及び監事の名簿

(3) 理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類

(4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類（長期借入金及び重要な財産の処分又は譲受け）

第44条 この法人が借入れをしようとするときは、その事業年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、理事会において、議決について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その3分の2以上の議決を得、かつ社員総会において総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上の議決を経なければならない。

2 この法人が重要な財産の処分又は譲受けを行おうとするときも、前項と同じ議決を経なければならない。

(会計の原則等)

第45条 この法人の会計は、一般に公正妥当と認められる公益法人の会計の慣例に従うものとする。

第7章 事務局

(設置等)

第46条 この法人の事務を処理するために、事務局を設置し、事務局長は理事会の決議を経て、常務理事の中から選任するものとする。

2 事務局には、職員を置くことができる。

3 事務局の職員は、理事長が任免する。

4 事務局の組織、運営及び職員に関する必要な事項は、理事会の決議を経て、理事長が別に定める。

第8章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第47条 この定款は、社員総会において、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上の議決により変更することができる。

(解散)

第48条 この法人は、法令で定められた事由によるほか、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上の議決により解散することができる。

(剰余金の分配)

第49条 この法人は、剰余金の分配を行うことができない。

(残余財産の帰属)

第50条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、社員総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第51条 この法人の公告は、電子公告による。

2 やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合には、官報に掲載する方法による。

第10章 補則

(法令の準拠)

第52条 本定款に定めのない事項はすべて法人法その他の法令に従う。

附 則

1 当法人の設立時社員は、次のとおりである。

福岡県太宰府市石坂2丁目8番21号

久世 安俊

福岡市中央区平尾5丁目14番22-205号パークハイツ平尾山荘22棟

上田 浩平

福岡市中央区地行2丁目4番7-212号ブライトパーク・サンリヤン地行

植村 邦佳

福岡県みやま市瀬高町太神9 1 7 番地2

辺春 容子

2 当法人の設立時理事、設立時監事及び設立時代表理事は、次のとおりとする。

設立時理事

久世 安俊

上田 浩平

植村 邦佳

設立時代表理事

久世 安俊

設立時監事

辺春 容子

3 当法人の最初の事業年度は、当法人設立の日から令和6年3月31日までとする。

令和5年7月2日

設立時社員

福岡県太宰府市石坂2丁目8番21号

久 世 安 俊

福岡市中央区平尾5丁目14番22-205号

パークハイツ平尾山荘22棟

上 田 浩 平

福岡市中央区地行2丁目4番7-212号

ブライトパーク・サンリヤン地行

植 村 邦 佳

福岡県みやま市瀬高町太神917番地2

辺 春 容 子

以上、一般社団法人西日本オペラ協会コンセル・ピエール設立のため、設立時社員久世安俊外3名の定款作成代理人である弁護士江越正嘉は、電磁的記録である本定款を作成し、これに電子署名する。

上記設立時社員4名の定款作成代理人

佐賀市城内2丁目11番19号

弁護士 江越 正嘉